

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p>当事業対象校 30 校のうち、セカンダリー12 校の 12 年生が 2016 年末に卒業し進学や社会に出た。南アフリカ共和国における若者の健全な経済・社会参加には、基礎英語力とパソコン技術操作能力が不可欠であるが、高校卒業試験の英語の合格率（添付資料 1）および司書教師アンケート調査（添付資料 2）から、全体的に英語力の向上がみられた。また、校長や司書教師からは、“事業で生徒が基礎的なパソコン操作法を身につけたことは、彼らが進学や社会に出る際の大きな力となった”という話があった。生徒たちの読書意欲とパソコン学習能力は高く、今後も図書室の書籍と 1 台のパソコンが地域の若者の将来の進路に貢献し、経済・社会参加への道を開くと考えられる。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>(ア) 学校図書室の充実と利用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当会図書指導員が対象校 30 校への定期的な巡回訪問を行った。</li> <li>2. 各校で必要な備品の配備、日本で英語の本を収集し、各対象校のレベルに合った本を配布した。</li> <li>3. 図書室利用のモニタリングと需要に合わせた蔵書の追加や入れ替え、分類のサポートをした。</li> </ol> <p>(イ) リソースセンターの設置</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. セカンダリー10 校の図書室にパソコンと印刷機を配備した。</li> <li>2. 職業に関する書籍を配備し、図書室内でパソコンや本による情報収集や進路指導ができる環境を作った。</li> </ol> <p>(ウ) 英語力向上を目指した活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各校のレベルに合った“ブックボックス”を貸し出し学期ごとに交換した。今年度は学校の図書室状況により貸出しを控え、学校の蔵書利用を促進した学校もあった。ブックボックスからの本の貸出しは、返却時に感想文や本の紹介などのブックレビュー（添付資料 3「ブックレビュー コピー」を参照）の提出を義務付けたため、書く力も養うことができた。</li> <li>2. 図書の授業利用へのアドバイスを行った。英語教師には授業で活用できる本や教材を紹介した。また、教師と生徒に、読後に本の紹介文や感想文を書かせることやスペリングコンテスト等の開催のアドバイスを行った。</li> <li>3. 図書員会生徒は朝会時や休み時間に全校生徒への本の読み聞かせや本の紹介を行った。</li> <li>4. 州教育省主催の読書推進イベントへの積極的な参加を促した。</li> </ol> <p>(エ) パソコン技術指導</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当会パソコン指導員が司書教師と生徒に基本的操作を指導した。</li> <li>2. 司書教師と図書委員会生徒が他の生徒への指導を行った。</li> <li>3. パソコン指導員が巡回訪問をして活動をモニタリングし、事業終了時に技能テストを行った。</li> </ol> <p>(オ) 図書委員会の活動推進</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各対象校図書室の運営・管理システムを確立した。</li> <li>2. 図書指導員が図書委員会への運営・管理指導を行い、図書室利用推進活動の進捗をモニタリングした。</li> <li>3. 新年度（1 月末から 2 月初）に委員会新メンバー生徒へのインタビューを行い、図書室運営に関する引き継ぎ状況を確認した。</li> </ol>

(3) 達成された成果

(ア) 対象校 30 校の図書室が機能し、有効に利用される  
各対象校で図書室および書籍が有効に利用されている（添付資料 2 を参照）。対象校の中には学校併合や生徒数増加でスペースを失ってしまった学校もあったが、そのような学校には、教室内にコーナーライブラリーを設置した。

(イ) 10 校の図書室がリソースセンターとして有効に利用される  
10 校の中にはコンテナ図書室を利用している学校もあり、スペースに限界はあるものの、生徒の利用に予約制を導入するなどして対応した。特に卒業試験を控えた 12 年生の活発な利用が見られた。全体的にパソコンと印刷機はしっかり管理されていたが、事業期間中に学校側の過失により紛失した学校が 1 校あった。合意書（添付資料 4「合意書コピー」を参照）に基づき、その学校は自己負担により新しく購入し事業を継続した。他の 9 校については、万全な管理体制の下、紛失、破損等は一切なかった。

(ウ) 対象校の生徒の英語力が向上する  
司書教師へのアンケート調査結果（添付資料 2 を参照）やインタビューから全体的に着実な向上が見られた。また、2016 年度高校卒業試験（Matric）の英語試験における対象校 12 校の平均合格率が 94% となり、前年度の 40% から著しい伸びを見せた（添付資料 1）。飛躍的な上昇には、教師や生徒たちの多大な努力があったと考えられるが、州教育省学区長からは“各校に図書室ができたことで生徒が英語の本を読む機会が増え、読解力がついたことが要因である”との話があった。当事業で図書環境を整えることで、今まで読書をする機会がなかった高校生たちの英語力を底上げできたことは、卒業試験結果に貢献したと考えられる。

(エ) 対象校 10 校の生徒がパソコンの基本的技術を習得する  
10 校で総数 470 名が指導を受け、最終的に筆記試験と実技試験に合格し、証書を手にした生徒数は 321 名だった（68%）。申請時に設定した指標（試験合格者 70% 以上）より若干下回ったが、その要因として、筆記試験が難しかったこと、途中で時間がとれなくなり継続できなかった生徒がいたこと、司書教師の多くが初心者で生徒に教えられなかったことなどが考えられる。

(オ) 図書委員会生徒が図書室の運営能力を身につける  
対象校のうち 29 校で図書委員会メンバー生徒主導での活動推進が行われるようになった（1 校は図書室スペースの問題と司書教師が十分に活動時間を取れなかったことからメンバー生徒の任命ができなかった）。特にセカンダリーでは司書教師が不在や多忙であっても図書委員会生徒たちだけで活動を継続できるようになった。新学期以降、指導員による図書委員会新メンバーへのインタビューで引き継ぎがしっかり行われたことが確認された。必要がある学校には図書室内で研修を行うことで、メンバー生徒は活動内容の確認と図書室運営方法を身につけた。対象校では、委員会活動の引き継ぎの重要性が認識され、できるだけ複数の司書教師及び年度末に卒業しない生徒を必ず委員に含める等のシステムが確立された。

(4) 持続発展性	図書室利用推進活動は継続して図書委員会メンバー(司書教師及び生徒)が中心となってい、引き継ぎを確実にを行うことで新年度の活動をスムーズに開始できるようにする。資機材の管理状況に関しては、州教育省学区担当マネージャーが学校訪問や校長会議で確認し、必要があればアドバイス、指導を行う。読書推進と英語力向上に関しては、州教育省図書部門(ELITS)地域担当者が対象校の状況を把握し、学校訪問で司書教師にアドバイスを行ったり、イベントやコンペティションへの生徒の参加を促したりしていく。
-----------	---